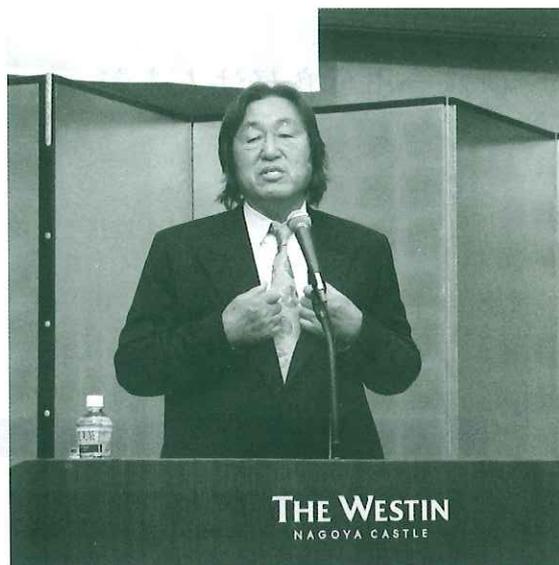


一般社団法人 名古屋西法人会
第2回通常総会記念講演会

ゴルフが教えてくれたもの ～判断力と決断力の岸辺～

プロゴルファー・作家

坂田 信弘 氏



覚悟は「好き」という 気持ちがつくる

平成5年8月に開塾しました。これまで72名がプロテストを受け67名合格。合格率は9割を超え世界一です。女子11名はシード選手です。

いま高校生が優勝しています。プロゴルファーは多くの経験をする
と怖さを知るようになります。1m外し続けると1mを難しいと思う。そうすると怖さが出てくるのです。プロのゴルフは怖さとの勝負です。ところが高校生は怖さを知らない。一番近い距離が一番易しい、目の前の1mは易しいと、真っすぐ打って入る。これから中学生が勝つ日がくると思います。

2週間前、福岡空港でソフトバンクのチームに遭遇しました。あいさつした秋山監督は優勝する気でいました。その後にあいさつを交わした松中選手は「野球は何が起こるか分からない。難しい」と言ったのです。

私は、彼は引退が早いと思いました。強い人間、向上途中の人間は難しいとは考えません。難しいと考えたら落ちていくだけです。

物事は単純がいい！向上心と覚悟です。覚悟は「好き」という気持ちで作ります。「球1千球を打て」と言ったら勘弁してくれとなりますが、1球、1球楽しく打って、いつのまにか1千球というのが一番いい練習です。世界一になるという覚悟があれば練習できます。巧くなりたいという向上心です。

向上心は、惚れた女性を自分のものにしようとする男の工夫と戦いのようなものです。“すげべ心”は偉大な才能です。

私は、「40歳を過ぎた男の下半身は公共のもの」「女房殿が独占しようとする男のウソと戸惑いが始まり、女房殿の怒りと悲しみが始まる。寛大さが欲しい。それですべてがうまくいく」と書き、女房殿の前で正座して謝ったことが何度もあります。

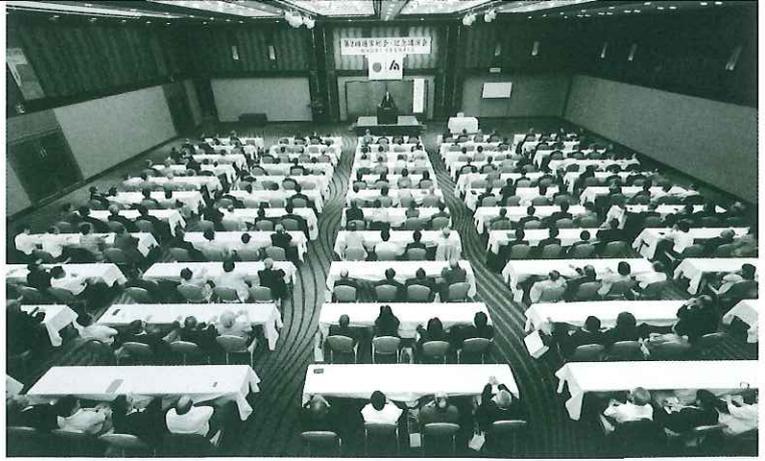
楽観主義で 明日が開ける

楽観主義が必要です。私はプロゴルファーとして結果だけ追いかけて、悲観主義でした。ニクラウスでもタイガーウッズでも勝つのは10試合に1試合、あるいは5試合に1試合。失敗ばかりです。失敗の辛さに耐えていくのです。それがプロゴルファーです。

過去を振り返れば悲観主義になります。楽観主義「なんとかなる」で今と明日を繋ぐ橋になります。楽観主義になればいい。原因は「自分の宝」にして、結果を捨てる勇気が必要。私は忘れる力がなかったからダメだったんです。

東海クラシックでは、全部パーオンして、スリーパットを3回で75。一緒に回っていた藤木に下手過ぎると引退宣言を受け、落ち込みました。翌年からトーナメントプロと執筆業の二刀流でやってきました。私は作家として賞をとりました。





平成5年8月熊本に塾を開塾しました。貧しい家庭の子ばかり入れました。

坂田塾には7カ条があります。ゴルフバカにはしたくなかったから。せめて英語が話せて礼状を書ける人間をつくりたかったのです。

全てボランティアです。塾生の練習場、ゴルフ場、道具、指導、運賃、ホテルなど全部、マンガ『風の大地』の印税で賄いました。

最初は、ただ走るだけで、素振りもさせなかった。11月になって練習ラウンド18ホールを初めて回り、子どもたちは嬉しかったと思います。ラウンドが終わって、塾の約束通りグリーンでバターの練習をしていたら、グリーンキーパーがいつまでやっているのかと怒ったのです。でもみんなは練習を続けました。

その3日後、14人の子どもたちが書いた礼状がゴルフ場に届きました。グリーンキーパーは「いままでジュニアの試合を多くやってきたけれど礼状を書いてきたのは14人だけです」と言ってくれました。

翌年3月春の大会、14人が練習をしていたら日没になったときグリーンキーパーは、おにぎりの差し入れと数台の車のライトで照らしてくれました。

優しさのなかで子どもたちは練習、翌日の試合で優勝しました。それが坂田塾のスタートです。

おちこぼれ塾生が プロゴルファー

札幌塾に本多^{みやり}弥麗という女の子が入りました。母一人子一人の家庭で、きれいな空気のところでもスポーツをしたらぜんそくが治ると思って選考会に来たのです。

入れました。高校3年まで在籍しましたが塾最大の落ちこぼれでした。早く辞めてくれと思いましたが。一人辞めたら一人入れることができるのです。彼女はいつもニコニコ笑いながら楽しそうに球を打っていました。小学6年のとき、月に一度の合同練習に松葉杖で来ました。骨折で1年8カ月クラブが握れませんでした。いつも見学に来ました。「打てる日が来るから楽しい。ゴルフは宝です。夢は真つすぐ飛ぶボールです」と言った。楽観主義でした。

彼女は中学2年に練習を再開しましたが、小学5年にも勝てません。でも辞めなかった。

中学3年の10月に母親と会いました。私は親に会うのは入塾選考会するときだけと決めていましたが、事務局長の強い勧めで会いました。母親は「退塾させてください」と言うのです。「なぜ退塾させるのか。わが子の宝を取り上げる理由を聞かせてくれ」と聞きました。「月に一度の合同練習の翌朝、弥麗の枕が涙でぐっしょりと濡れていたことを知ったから」と言います。

母一人子一人、母の喜んでくれる笑顔が大好きだったからゴルフを続けてきたけれど、彼女は毎月泣いていたのです。

私は子どもたちに「お前たちの夢の花は必ず咲く。最後に咲く野の花になれ。急ぐな」と言ってきました。「わが子を信じないで誰が信じてくれるのか。本人が苦しい、辞めると言わない限り退塾させない」と言いました。私が信じるのは子どもの才能ではなく努力です。努力する限り前に進めます。信じるのが大事です。

弥麗は尚志学園に行きましたが、相変わらず上達しませんでした。3年のとき一番下手な彼女を塾のキャプテンにしました。

朝10時から夜10時まで練習場を離れず、迷惑にならないように一番端っこで球を打ち、打席のベンチでおにぎりを食べました。その姿を見て後輩たちは協力、ひとつのチームになっていきました。

彼女が高3のとき、私は尚志学園ゴルフ部監督に電話をして、「本多弥麗を一度でいいから全国大会団体戦に連れていってほしいか」と依頼しました。

頭を下げるのが好きではない私が依頼したのです。もう4人の選手は決まっていたが、「高校1年の選手の代わりに連れていきます」と言ってくれました。仲間も「私たちみんなも本多先輩に行ってもらいたいと思っていました」と喜んでくれました。





全国大会の最終日。(弥麗以外の)3人の選手は、私たちが頑張らなければと緊張していたと思います。3人目の選手のスコアは85だったのです。泣いていました。そこへ弥麗がキャプテンとして生涯のベストスコアで回ってきたのです。最後のバットを入れれば75。弥麗のボールは教会の鐘のような音で入ったのです！

全国3位でした。祝勝会で「大きな思い出をいただきました」と言ったそうです。

岐阜県中津川中京学院大学の体育部教授ゴルフ部監督が特待生として本多弥麗を迎えたいと言ってくれました。弥麗は中部学生選手権で3位でした。その年に5勝しました。中津川で花が開いたのです。

大学4年になったときプロ転向したいと言いました。目一杯だからプロは無理だと私は思いました。弥麗は母親が安らげるマンションを買いたい。そのためには賞金しかなかったのです。

一次試験も二次試験もぎりぎりでしたが、プロテストに合格したのです。12年間、お母さんの笑顔のために一人で苦しい川を渡ってきたのです。



技は盗んで 自分のものにする

坂田塾は、優勝すると翌年クラブとウェアをもらえるようにメーカーに依頼していました。

親が買い与えたら即退塾、優勝するしかありません。アプローチを学ぶために、上田桃子は九州ジュニア選手権でゴルフ連盟に電話をして、アプローチが一番上手な人と回してくださいと依頼しています。盗む技が一番自分のものになるのです。飢えることが大事です。

貧乏人の子どもは、稽古事はひとつです。だからしがみつくと、だから忍耐力ができるのです。忍耐力がつくのは小学校のときです。だから塾生はすべての稽古事を辞めさせたのです。ゴルフだけ。それが入塾の条件です。

私は子どもたちに言います。「お前たちの空は夕焼け空。成績が悪ければ、頭のとっぺんの太陽で終わる。良ければ長く伸びた影の下で最後のバターを打てる。それがお前たちの目指す空だ」。

私は信じています。今年、本多弥麗が夕焼け空の下で最後のバターを打つことを。塾最大の落ちこぼれが大きな1年に臨もうとしています。

振り返ればいい人生でした。良き日々でした。

人の世は絨毯のように縦糸と横糸で編まれています。縦糸は丈夫な支えの糸です。色は要りません。横糸は金銀の図柄で個性・価値を作るのです。縦糸はこころの糸、横糸は愛の糸です。

物事は難しいと思ったときから、重くなります。下を向いてはいけません。真っすぐ歩くためには夢や希望が要るのです。

人の世は信じるのが大事です。子どもは親の言うことを一番信じます。社会に出たら信じる人を一人見つけることです。信じる気持ちがあれば長いほど良く、素直に受け止め、頑固に守っていく。それが一番大事です。

※ この原稿は平成26年5月29日の講演を要約したものです。

文責：(一社)名古屋西法人会

